



平成灯台守

2020. 6 月号

発行/御前埼灯台を守る会

「3密」を避け灯台資料館再開

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月より休館していた日曜灯台資料館が、燈光会の灯台参観業務に合せ6月7日再開しました。

待望の灯台前広場“ウミエール”が完成し、「御前埼の夏到来、よし！」と意気込んでいた矢先の『非常事態宣言』で出鼻をくじかれました。やっと開館できましたが、まだまだ予断を許さない状況ですので、当番は来館するお客さんに、マスク着用、手指の消毒、社会的距離(2m)の確保等と呼び掛け対応しています。

図書館で灯台の歴史、魅力を紹介

市立図書館「アスパル」2階のギャラリーで7月1日から15日まで『御前埼灯台展』を開催します。展示内容は、昭和期の灯台周辺の風景や出来事、灯台を舞台に撮影された映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケ風景、日本の灯台50選等写真資料約200点。会員手作りのペーパークラフト灯台(紙製模型)も展示します。

めざせトーダイ夏期特別講座

灯台の文化、歴史的価値の再認識と観光活用を考える「第3回灯台ワールドサミット」が今年の11月に御前崎市で開催されることになっていますが、コロナの状況から開催をどうするか関係市町で構成する協議会で検討中です。

灯台を守る会では、市民の皆様へ御前埼灯台のことを“ざっくり”知っていただくため下記のとおり、「灯台講座」を図書館「アスパル」2階視聴覚室で開催します。

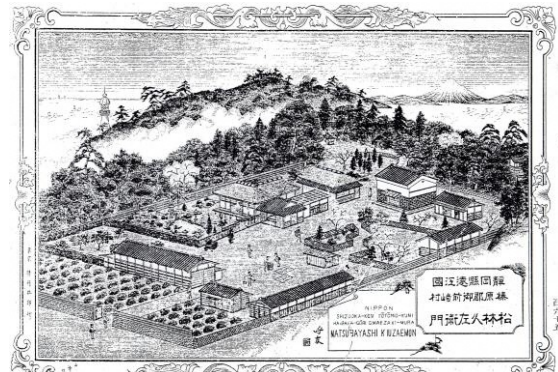
日時 7月4日、11日(土) 9時:30~11:30
内容 「御前埼灯台の歴史と魅力」、「日本・世界の灯台」、「船乗りから見た灯台」など

受講は無料です。お気軽にお越しください。

御前埼灯台の歴史 No.9

異国人の生活に村人仰天

ブラントンは灯台の官舎が完成するまで、御前埼村の大庄屋松林久左衛門宅【下図】の奥座敷を宿舍とし、日本政府から差し向けられたコックが食事や身の回りの世話をしていた。

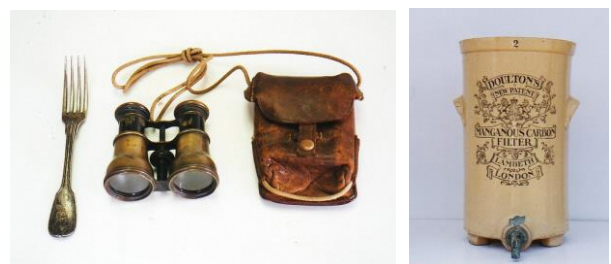


彼は気さくでユーモアがあり、彼の方から村人に声を掛けるなど次第に溶け込んでいった。

村人達は次第に慣れてきたが、異国人の生活様式や行動は理解できないことが多く、休日に奥さんと腕を組んで仲良く散歩する姿にあ然としていたという。

また、石けんで体を洗っている姿を覗き見て、「西洋人が色白なのは体を砥石で磨いているからだ」とか、ワインを飲んでいるのを見て、「体が大きくて赤ら顔をしているのは血を飲んでいるからだ」と村中に触れ回る者もいた。

一方、灯台建設に携わった村人も彼らから戴いた、白くて四角い物(石鹼)を家に帰り家族が見守る中、ナベで煮たところ泡が吹き出してきたびっくりしたとか、日傭(賃金)が安かったことから争議となり県下最初の裁判沙汰に発展したことなどが伝えられている。



現在資料館に展示されている双眼鏡とフォーク、浄水器【上記写真】は、若い技術者が村の娘さんを「お嫁さんに欲しい」とプレゼントしたものだそうである。